

スズキ、新型船外機

「DF200A／DF200AP」を発表

スズキ株式会社のアメリカ子会社スズキモーターオブアメリカ社は、スポーツフィッシング艇や、高速クルーザーなどのマリンレジャーから業務用まで、幅広い用途にお使いいただける軽量で低燃費の新型船外機「DF200A／DF200AP」を発表した。

「DF200A／DF200AP」は、「DF175」で採用している総排気量 2,867cm³の直列4気筒エンジンをベースに、吸気システムの見直しや高圧縮比化により、147kW（200PS）の最高出力を実現した4ストロークの新型船外機である。直列4気筒エンジンの採用により軽量化を図るとともに、リーンバーン（希薄燃焼）システムの採用により低燃費を実現した。

さらに「DF200AP」には、世界で初めてプロペラの正／逆回転を統合した画期的な技術「スズキ・セレクトティブ・ローテーション」を採用し、操作系を従来の機械式ケーブルから電子制御方式に変更。反応の良いスロットル制御となめらかなギヤ操作を実現した。

現行のV型6気筒エンジンの「DF200」に加え、新たに直列4気筒エンジンの「DF200A／DF200AP」を追加することにより、最高出力 147kW（200PS）の船外機のラインアップが充実し、多様なタイプのボートユーザーのニーズに応えることができる。

スズキは、「DF200A」を2014年10月より、「DF200AP」を2015年2月よりスズキの豊川工場生産し、欧米を中心とする全世界で順次販売を開始していく計画である。



新型船外機「DF200A／DF200AP」(写真は「DF200A」)

2014年6月4日発表